

総合科学技術・イノベーション会議有識者議員懇談会〔公開議題〕

議事概要

- 日 時 令和5年1月26日(木) 9:29～10:06
- 場 所 中央合同庁舎第8号館6階623会議室
- 出席者 上山議員、梶原議員、梶田議員(We b)、佐藤議員(We b)、  
篠原議員、菅議員、波多野議員、藤井議員(We b)  
(事務局)  
大塚内閣府審議官、奈須野統括官、坂本事務局長補、松尾事務局長、  
井上審議官、覺道審議官、次田参事官、高原審議官  
生田参事官  
(文部科学省研究振興局)  
森局長  
(文部科学省高等教育局)  
池田局長  
(文部科学省科学技術・学術政策局)  
柿田局長  
(オブザーバ)  
(文部科学省) 井上諭一総括審議官
- 議題 ・地域中核・特色ある研究大学総合振興パッケージ改定案について
- 議事概要

午前9時29分 開会

○上山議員 皆様、おはようございます。

まだ藤井議員が御参加、後ほどと聞いていますが、時間になりましたので、総合科学技術・イノベーション会議有識者議員懇談会として公開で、今日は最初に地域中核・特色ある研究大

学、いわゆる総合振興パッケージの改定案についてお諮りしたいと思っております。

これまで木曜会議の議員の方から頂いた御意見に基づきまして、整理してもらった本日の資料について、パッケージ用の後半部分の内容も含めた改定案について、事務方から報告をしてもらい、その後、議論を深めていきたいと思っております。

本日は文部科学省から池田高等局長、柿田科学技術・学術政策局長、それから森研究振興局長にもお越しを頂いております。

それでは、内閣府の生田参事官から地域中核・特色ある研究大学総合振興パッケージの改定案についての説明をまずお願いをします。よろしく、生田参事官。

○生田参事官 ありがとうございます。おはようございます。

それでは、パッケージについて、これまで本当に精力的な御議論をありがとうございました。今日、初めてこうした形で全体像、改定案の全てという形で御提示をさせていただいております。

本日、資料を2種類用意しております、一つは対外的にこれから説明するに当たって、使いやすくという意味で概要、もう一つは改定案の全体の本体というものです。少し時間も限られておりますが、改定案として御提示するのは今日が初めてですので、全体版の方を最初からざっと説明をさせていただければと思います。

まず、改定案の前半の部分は、前回からの変更点に絞って御説明をさせていただきます。

順番に申し上げますと、大きく変更しているのは9ページ目、こちらは総合振興パッケージで目指す大学像（総論）というふうにございます。ここで、もともとあった絵があるかと思うのですが、その絵について、少し対外的に誤解を与えないようにということで、大学ファンドによって支援を想定している世界と伍する研究大学と並立する形でパッケージによる支援を受けるような大学というのを並べるという形で、少し絵の修正ではございますが、見た目も変わってきてございます。

続けて、次の10ページ目、こちらが前回御議論いただきましたパッケージで目指す大学にも期待されるような機能、これは三つに分けて前回御議論いただいたかと思えます。その際に、大きく御意見が出ておりましたのは、そのそれぞれの機能がばらばらでは意味がないというお話があったと思えますので、この四角囲みの少し小さくなっておりますが、括弧書きで「これらの分類は便宜的なものであり、それぞれの機能は、独立ではなく連動することで総合知として発揮されることに留意」という言葉を明記させていただいたところです。

また、飛びまして、15ページ目、こちらは中身が変わっている訳ではないのですが、初め

て予算案の額が決まっておりますので、数字を入れさせていただいております。令和5年度の政府予算案として、パッケージとしては442億円、また今回補正で大きくお金がついておりますので、その数字。括弧の中に、「この他、関連予算として、720億円」というふうに書いてございまして、この意味合いはどのようなことかと申し上げますと、同じ15ページを見ていただくと、①、②、③に分解されておりますが、①がいわゆるコア予算、大学自身にお金を支援し、大学自身の機能を強化する、これに使われる予算が442億円。先ほど申し上げましたこの他関連予算、これがこのページの中の③番、地域社会における大学の活躍の促進、ここに720億円というふうに分解をしているものです。

ページを飛びまして、次は21ページ目に行かせていただきます。21ページ目、こちらも大きく変わった訳ではございませんが、今回新しく基金でできた事業に関しましても、一つの単独の大学での申請ではなくて、大学とほかの大学等との連携、こうしたものが強く求められております。こうした観点も踏まえまして、21ページ目の③、組織間連携等々と書いてございましてところに、括弧で連携すること自体が目的ではなく、大学ごとに何を強化するために、学内では何が不足していて、それをどこから連携することで補うと強くなれるのか。そういった明確な戦略性が不可欠であることに留意ということ、自明なことではございますが、改めて追記をさせていただいております。

ここまでの前回の御議論いただいた、特に前半部分で修正をかけさせていただいたところです。

27ページ目以降が、大学に対する強化策を施した上で、大学自身が強くなった上で、地域社会にどのように活躍促進をしていくかといった関連の施策が28ページ目以降の内容です。

28ページ目以降については、もともとパッケージを昨年2月に作ったときからあったものではございますが、思想といたしましては、より一層大学が地域で活躍促進していただくためのグッドプラクティスをできるだけ多く増やしていこうというふうに思っております。例えば28ページ目の日本地図、ここには新たに今後採択予定の地域を増やしていくといったことをしたいと考えてございますし、続いて33ページ目、これはデジタル田園都市という構想がございまして、この中で例えば33の事例ですと、デジタル田園健康特区、こうしたところに日本で3か所選ばれていますが、その中で特に大学が中核的な役割を果たしている事例ということで、岡山県の吉備中央町と岡山大学の取組を事例として書かせていただいております。

続いて34ページ目、こちらも大学と地域をつなぐという意味で、これは内閣府で日本オープンイノベーション大賞というものをやっております。もともとこの賞自体はあったのですが、

この中に今年度初めて大学と地域をつなぐ人材や組織への表彰というのを選考対象の中の一つの枠として作っております。ここで、受賞した事例をより具体的に、なぜ、何がよかったのかといったことを特記として書かせていただいているところです。

続きまして、36ページ目、こちらはいわゆる政府全体の予算をつないでいくという観点から、このパッケージの中で、事業マップというものを作ってございました。これまでは、36ページ目でございますMa a S、スマート農業等々の分野であったのですが、今回改定に当たりまして、一番右端のヘルスケア・健康づくり、この部分の領域を増やしております。これの具体的なものは、後ほど御覧いただければと思いますが、パッケージとして60ページ目以降に具体の支援メニューは記載をしているところです。

また、37ページ目、こちらはいわゆる府省関連携での話ですが、これは先ほど申し上げました、これからパッケージを決定するまでの間に具体の事例が出てきましたら、それを追加したいというふうに思っているところです。

続きまして、39ページ目、こちらが内閣府のPRISMという事業の中で、地域中核大学イノベーション環境強化事業というものをやってございました。この初めての採択実績というものが出ております。こちらも、より広くほかの大学に知っていただくことで、どのように地域の中核となる大学が地域貢献を果たしていくことが期待されるのか、こうした意味での参考となるのではないかという意味で、採択大学の事例を少し詳細に書かせていただいているところです。

このような形で、後半部分はどちらかというと、大学が持っていますポテンシャルをどうやって地域社会に届けていくかのグッドプラクティスをできるだけたくさん、ここで紹介することで、ほかの大学も参考にすることができるような形にしていきたいというふうに思っているところです。

最後に42ページ目、今後に向けてのページです。こちらのところは、このパッケージ全体のサマリーとして書かせていただいております。二つ目の四角のところ、ここはパッケージの目的、今回改定に当たりまして、ここをより明確化しております。大学がそれぞれ自らのミッションに応じたポートフォリオ戦略の下で、選択的かつ、発展段階に応じて、それぞれの機能を各府省の事業を活用して更に強化しやすくする、これこそがこのパッケージの目的だということ、明記をさせていただいております。

また、三つ目の四角のところ。まだ今後に向けて検討しなければいけない事項は残っております。例えば、三つの機能がございましたが、その機能ごとに大学がその発揮度合、つまり、

例えば卓越性であれば論文だけではないだろうという観点もございまして、その発揮度合をどう見定めていくのか、いわゆる指標的な観点ですとか、また、その機能を強化する際に、戦略的にほかの大学と、これは大学に限ったところではないと思いますが、そういったところとの連携、連携という言葉はよく使われますが、その具体の在り方、こうしたところは多分、さらなる検討課題として残っているのではないかというふうには認識しております。ただ、いずれにしても、このスタートラインとして、このパッケージを広く周知することで、しっかりと大学がそのポテンシャルを最大発揮してほしいという形で書かせていただいております。

四つ目の四角、ここは政府においてに求めているものですが、当然ながらこのパッケージというものを上位概念として、個々の事業の制度設計や推進を図る、これは当然ですが、一方でパッケージとしての政策評価ではないですが、どのような効果がもたらせたのか。単純にその施策を束ねただけではないといった意味で、その効果を定期的にフォローアップしていく、これが必要ではないかというふうにあえて記させていただいております。

最後の部分、こちらはパッケージの検討に当たって、必ず忘れてはいけない事項ですが、大学ファンドとの連動です。有機的な連携、効果的な資金配分の在り方、これについては、ファンド側は、まだ公募中ですが、今後話が進む中で具体的な内容とするべく、引き続き検討が肝要であるということを付言させていただいて、このパッケージの締めとさせていただいているところです。

少し長くなりましたが、説明は以上です。

○上山議員 ありがとうございます。

今日は、文部科学省から3人の局長に来ていただいている、ずっとこれまでも大変お世話になりましたので、一言ずつそれぞれの局長の方から、今回の総合パッケージについて、お言葉をいただければいいと思いますが、最初はどなたでも結構ですが、では柿田局長からどうぞよろしくをお願いします。

○柿田局長 科学技術・学術政策局長の柿田です。ありがとうございます。

今、生田参事官から御説明いただきました内容のところ、特に42ページの今後に向けてというところでも書いていただいておりますが、今、私どもの方ではおかげさまで、これまでも御紹介してまいりましたが、このページでいいますと、黒ポツの四つ目、第2次補正予算で基金を計上いたしました地域中核・特色がある研究大学強化促進事業の制度設計を、有識者会議を立ち上げて既に開始をしているところ、本パッケージの趣旨を十分に踏まえてとここにも書いていただいているように、しっかりとその趣旨を踏まえながら、文部科学省の中で検討を進め

ているということをまず御紹介させていただきます。

それから、既にこの事業に関しては、各大学からも問い合わせ、それから具体的な相談が文部科学省の方に行っております。今の段階で、ここにも書いてありますが、パッケージの趣旨を大学にもしっかりと周知をしていって、意識を合わせて進めていくということが大事だと思っております。そうした取組も併せてやっております。

それから、あとは基金の事業はもとより、ほかの事業もそうですが、基金については5年分の基金ということについておりますが、特に研究力強化ということを考えますと、基礎研究という部分も非常に大きな要素ですので、5年間でということ、最初から時限を切ってしまうと、現場で中長期的な基礎研究の取組ということが、なかなかしづらいということもあると思います。我々としては、現場には少なくとも10年を視野において、まずは5年分の基金を今回確保したということをお説明しながらやっておりますが、このパッケージ全体としても、そのような時間軸を持って進めていけたらいいのかなと思っております。

ありがとうございます。以上です。

○上山議員 ありがとうございます。

では、池田局長どうですか。どなたでも結構です、順番は。

○森局長 研究振興局長の森です。

この地域中核・特色ある研究大学総合振興パッケージの中にも、私どもの局の直接の担当ではWP I等の事業を入れておりますが、このパッケージと共に国際卓越研究大学の公募、これは今やっているところで、3月を末として募集をしているところです。

これと併せて、なおかつこうした組織に対する支援と併せまして、科研費をはじめとした研究プロジェクトに対する支援、こうしたことの充実によりまして、全体として研究力の強化、大学におきます強化を図っていきたいというふうに思っております。

○上山議員 では、池田局長。

○池田局長 高等教育局長の池田です。これは前回の議論のときも申し上げましたが、私ども高等教育局としては、今日、資料2の9ページの全体の大学像のように、研究力のある大学についてはこうした支援がある訳ですが、実はこの外にも色々な大学があると考えております。例えば今、成り手が減っていて質の低下が懸念される小中学校の教師を養成する教育学部を設置する大学であるとか、地域の保育とか介護とかの人材を養成する学部を設置する大学など。こうしたところは研究力という点では、とても突出しているというのはいない訳ですが、実践的な教育に非常に熱心に取り組んでいるところも少なからずありますので、私どもとしては、こ

うしたところも視野に入れて、大学全体を見つつ支援をしていきたいと思えます。

その一つとして、デジタルやグリーン分野の成長分野に大学が転換する際の支援をするという基金が令和4年度第2次補正予算で3,002億円の基金ができました。これで特に私学は文系が多いという傾向がありますので、私立や公立大学の学部にもう少しデータサイエンスの要素を入れたり、DXを進める大学の学部転換を支援すると。これももうすぐ、できれば3月末ぐらいから公募を開始したいと思っておりますので、こうした取組も併せて今日の総合振興パッケージと連携させて進めていきたいと思っております。

以上です。

○上山議員 ありがとうございます。

それでは、今回の最終案に近いものについて、議員の先生方からの御意見、御質問等をお受けしたいと思います。どなたでも結構ですので、どうぞお手をお挙げください。よろしく願います。いかがでしょうか。

では、今、手が挙がったのは佐藤議員ですね。佐藤議員、どうぞよろしくお願いします。

○佐藤議員 ありがとうございます。

最初に、このような形でまとめていただいたことに対して、改めてお礼申し上げたいと思えます。

その上で、むしろこのパッケージの先の選定プロセスの中に出てくる問題ということから、少しバックキャストして幾つか申し上げておきたいなという点がありますので、お時間を使わせていただきます。

1点目なのですが、この地域中核・特色ある研究大学総合振興パッケージというものが、絶えず国際卓越研究大学、10兆円ファンドをベースとした国際卓越研究大学のパッケージと車の両輪であるということを非常に強く意識しなければいけない、ということです。ただ、この車の両輪という認識が人によって若干まちまちなのではないかと、いう気がしています。今回の地域中核・特色ある研究大学というものは当然、ある程度相応の研究開発力を備えていることが前提なのですが、これは将来、国際卓越大学を目指すセカンドティアの大学であるというふうに考えている人たちもいるのだと思っております。

私は、必ずしも将来、国際卓越研究大学を目指す大学を選定するという訳ではないと思っております。私は、車の両輪という意味は、正に多様な大学がそれぞれの存在を高めることで日本の研究開発力がトータルで底上げされていくということを目的としていると理解しておりますので、両方の大学群がお互いに特色を活かして研究力を高めていかないと、日本の研究開発力と

いうものは前進し得ないという理解の中に立った上での車の両輪ということだと思っています。この点、改めて、必ずしも国際卓越研究大学を目指す、予備軍を選ぶということではないということをはっきりさせておきたいと思います。それが1点目です。

2点目は、大学側の自主的な提案と、政策当局側の意図とを、十分に今回すり合わせる必要があるということです。

それは、具体的に申し上げると、どこを目指すのか、という目的とか目標、何をやるのかという手段、手法、これをスタートする時点で大学側と政策側がしっかりと同意しておく必要があるということだと思っています。具体的には、ある種のK P Iを出発時点で設定しておくということがいいのではないかと思います。これは、これからの選定プロセスの中における技術的な問題でもあるのですが、このパッケージそのものの政策目的を実現する為には、そのようなプロセスが今回は非常に重要になるのではないかと思います。

その点に関係して申し上げますと、連携という問題も、どういう連携をすべきかということは恐らく大学側だけの意見だけではなくて、連携によって目指す姿を政策側としっかりとすり合わせをすること、又そのために必要なK P Iを設定するということが、極めて重要になってくるのではないかと感じています。

私からは以上です。

○上山議員 貴重な御意見をありがとうございました。

同じようなことを考えて我々としてもやってきております。

改めまして、そのことを、生田参事官、よろしいですか。

○生田参事官 ありがとうございます。

正に、おっしゃるとおりでして、1点目のパッケージで支援を対象としている大学が全て国際卓越の予備軍ではありません。だからこそ、逆に今回こうした「羅針盤」という形を用いまして、その卓越性だけではなくて、地域貢献という軸も同じような形で書かせていただいております。やはり大学がそれぞれのミッション、それから戦略性、それに応じてどこをどうやって伸ばしていくのか、それをより多様なものにしていくことこそが日本全体のトータルとしての力を強くしていくと。正に、そのような認識でパッケージもしっかりと推進をしていきたいというふうに思っております。

それからK P Iの設定、これは個々の施策ごとに大学と政策側がより対話をして、ハンズオンしながら伴走支援していく。思想自体は我々、そうした形でやっていこうというふうに思っております。現在、多分具体のK P Iの捉え方、あくまでパッケージの中ではまだ定性的であ



ったり、少し包括的な概念にはなっておりますので、そこを多分事業ごとの目的に応じて、より精緻なものにして、大学がより誤解のないように理解をしていただいて、政策当局と対話がしやすいような形、そういった方向性を目指していければというふうに思っているところです。

以上です。

○上山議員 ありがとうございます。

最初の点は、こうした公開の場できちんと予備軍ではないということも明確にさせていただいて、有り難かったなと思います。ありがとうございます。

ほかの議員の方々、今、梶田議員挙がりましたか。梶田議員、どうぞ。

○梶田議員 どうもありがとうございます。

まとめていただきまして、どうもありがとうございました。

資料は結構だと思うのですが、関連して、せっかくの機会ですので、2点ほど思うことを発言させていただければと思います。

まず、地域中核・特色ある研究大学の議論の中にもありました、研究時間の確保の項目の中には、もともとは評価疲れ、申請疲れへの対応もありました。この項目は、大学として判断でどうにかなるものではないという理由で、今回の資料には入っていない形というふうに理解しておりますが、この件は非常に大切かと思っておりますので、今後の議論をよろしく願いいたします。

それから、もう一つ、このパッケージは非常によくできていると思うのですが、今までの政策を振り返ってみますと、色々なことを打ち出したときに、大学を過度に縛ることによって、結果として大学の力をそいできたという面があるかと思っておりますので、そのようにならないように実施するということが極めて大切だと思っておりますので、この点をよろしく願いいたします。

以上です。

○上山議員 ありがとうございます。

とても重要な御指摘だと、これは生田参事官、我々の方で引き受けて、また文部科学省の方々ともいろいろと、特に研究時間も含めまして、議論させていただきたいと思っております。今の点、テークノートさせていただきます。

それでは、藤井議員ですかね、次は。藤井議員、どうぞよろしく願いします。

○藤井議員 ありがとうございます。

○藤井議員 まずは、大変充実した形で取りまとめをしていただきまして、ありがとうございました。

佐藤議員がおっしゃったことにも少し関係するのですが、これまで、地域中核・特色ある研究大学は国際卓越研究大学と相互に相まって、日本全体の研究力を上げていくのであるという議論をずっとしてきています。資料1最後のページ、今後に向けてというところで、大学ファンダによる運用益からの支援が開始されるタイミングも見据えつつ、と書かれてはいますが、国際卓越研究大学のハブ機能や、大学共同利用機関法人、共同利用・共同研究拠点など、全国の様々な地域との連携・相乗効果をしっかり考えていただくことが重要なのだらうと思いますので、この点、改めて確認をさせていただければと思います。

もう一つは、今回レーダーチャートを作っていたら、卓越性と地域貢献とイノベーションという軸を取っている訳ですが、必ずしもこの軸の全体を外側に広げていくというよりは、この形をどういう形に作り上げていくかということが、正に特色ある研究大学を作り上げていくということになるのだらうという理解をしております。

その上で、アウトカムを今後どう見ていくのか、あるいはその選定のプロセスでも、例えば10年間での変化をどう見ていくのかということが、今度は次のステップとしては重要になっていくのかなと考えています。その意味では、例えば地域への経済効果や、人材の流入等々を含めて、マクロにいろいろ見ていくことも重要だと思います。もう一つは、先ほどのレーダーチャートの件とも関係するのですが、卓越性についても、一般的な論文の指標のみで見ていくことにならないようにしていただきたいと思っています。これは飽くまでどのように特色を出していくかということなので、例えば地域ならではの新しい分野が創出されていくというようなユニークネスの部分で、どれくらい強みが発揮できたかなども含めた今後のモニタリングを考えていくことが重要だと思いました。

そのあたりは今後、もう少し議論をしていく必要があるのかなと思います。

私からは以上です。

○上山議員 ありがとうございます。

今の御意見は恐らくは、柿田さんとかがやっている検討会でも相当議論されることになり得ますよね。連携の在り方とか共同機関の利用の仕方とかも含めてですが。

○柿田局長 連携のところは、しっかりこれから議論を深めていく予定にしております。

○上山議員 ありがとうございます。

では、ほか。篠原議員。それから、菅議員。

○篠原議員 生田参事官の御説明の中で、今後に向けての四つ目のところで、本パッケージの趣旨を十分に踏まえて、個々の事業の制度設計や推進を図ると書かれておられるので、ここに

非常に期待しているのですが、19ページを見てみますと、これまでの既存施策がまだ並んでおります。今年度については、それぞれの施策の最適化という観点で選ばれたと思うのですが、これからは各施策の個別最適で選ぶのではなく、今回作ったパッケージから見たときの、いわゆる全体最適な格好になるように、この選定というのも本当に進めていかなくてはいけないと思います。

その運用は、とても難しいと思うのですが、結果として選ばれたものを全部並べてみたときに、本パッケージの趣旨にどのくらい合っているのかは、是非見直すといえますか見返しをしてほしいです。あと次のステップとしては、今の各施策に対してはこれだけの予算が配られているのですが、今回のパッケージから見たときにこの各施策に対する予算の振り分け方は、これで本当に適しているのかどうかという議論もあると思います。

この予算を持っている部局がそれぞれ違いますので、それぞれの部局の思いはあると思いますが、部局の個別の思いを乗り越えて、全体最適に向けどうの様に取り組んでいくのかという議論は、是非これからも続けていただきたいと思っていますので、これはお願いです。生田参事官に期待するところ大です。

○上山議員 大変ですね、生田参事官。

○生田参事官 ありがとうございます。

○上山議員 了解しました。

○上山議員 では梶原議員、それから波多野議員。

○梶原議員 ここまでのおまとめ、大変ありがとうございました。

今後に向けてというところに出てきました三つ目のポイントでは、地域中核・特色ある研究大学がそれぞれのポテンシャルを最大限発揮されるように期待するとありますので、是非これが実現できるよう、各大学との丁寧な対話と相互理解が深まる動きをしていただきたいと思っています。

それから、四つ目のポイントですが、パッケージ全体としてどのような効果がもたらされたか、定期的にフォローするとあります。難しいとは思いますが、ある時間軸を考えると、全体としてどのような効果が出ているべきなのか、定量的若しくは定性的な目標を予め持った上で、フォローしていく方がいいと思います。

その上で、目標については事後的に変更する必要性も生じうると思うのですが、今々の書き方だと少しジェネラルな印象がありますので、もう少し具体的に踏み込んだところまで取り組むというニュアンスが入るとよろしいのではないかと思います。今後検討いただければと思

います。

いずれにしても、本事業を進めていく中で、先々までこれ一辺倒でいくという訳ではないと思います。最後のところに、引き続き検討が肝要とありますので、今後進化していくものだと思っていますが、あるタイミングで、当初立案した目標がどうなっているのか、定性的な話、定量的な話を括り分けする必要もあるかと思いますが、丁寧に把握しながら進めていただきたいと思います。現場との対話をしっかりお願いいたします。

○上山議員 ありがとうございます。

今の御指摘も踏まえまして、我々の方で引き継ぎたいと思います。

波多野議員。

○波多野議員 もう皆様がおっしゃったとおりで、これだけまとめてくださって本当にありがとうございました。大学の期待は大きいです。パッケージの評価に関しては梶田議員がおっしゃったように評価疲れがないような工夫、そしてアウトカムを意識した評価が必要と考えます。グッドプラクティスが非常に有効ですね。COIとか、協創の場などがどう活用されていて、どういう効果が出ているかという事例は、大学間の連携を検討する指南となる地図になると思います。この分厚い資料はこれまでの重要なデータの蓄積であり、グッドプラクティスは効果的だと思います。今後、これがどうステップアップしていくかというのは楽しみです。

先ほど、5年の基金であるものの10年を目指していただくということで、更に長期的な視野での大学、地域の発展に色々なグラウンドプランが描けるのではないかという期待を持ちます。

あと、19ページのところで、デジタル田園構想も入っているというふうにおっしゃっていましたが、更に府省庁の関係の施策がここに組み込まれて、さらなるパッケージが広がっていくようにというところを期待します。感想です。

以上です。

○上山議員 ありがとうございました。

○上山議員 菅議員。

○菅議員 簡単に。

皆さん、十分議論していただいたので、非常に素晴らしいパッケージになっていると思います。先ほど、梶原議員もおっしゃいましたが、やはりダイナミックに時代の要望を捉えて進化できる大学になってもらうのが多分このパッケージの最大の目的だと思いますので、そこが評価されるようにしっかりと評価の中にそうしたことを加えていただけるとよいのではないかと

思った次第です。

以上です。

○上山議員 ありがとうございます。

では、皆様方の御意見を頂きました。

これまで何回にもわたって、大変精力的な御議論を頂きまして、本当にどうもありがとうございました。

地域中核・特色ある研究大学総合振興パッケージの改定案については、本日も頂いた様々な御意見を踏まえまして、若干の必要な修正をすることになると思います。それをもって、1月下旬から2月上旬に開催予定をしているC S T Iの本会議にかけて、最終的な御報告とさせていただきたいと思っております。

議員の皆様には、最終的な修正内容については、あとは少し事務局と私が責任を持って修正いたしますので、そのことについては御一任いただきたいというふうに思います。

よろしいでしょうか。ありがとうございました。

では、これをもって最終的な改定案の最終案の提示ということにさせていただきます。3人の局長、どうもありがとうございました。

午前10時06分 閉会